

特集

集める心

物を集める、これはとても身近な行動です。誰も子ども時代に一度や二度、お菓子のおまけや好きなキャラクターのおもちゃを、夢中になって集めた経験があるでしょう。大人の間でも、高価な美術品・稀少品からちょっとした日常品まで、熱心な「コレクター」たちが大勢います。人が収集活動に時間とお金を費やすことには経済上の意味があるほか、コレクターどうしでコミュニティやネットワークが築かれ交流が盛んなところをみると、社会的な意味もあると考えられます。また資料の収集活動が、博物学や考古学など学問の発展を築いてきた歴史もあります。

このように「集める」ことが私たちの生活を豊かにしてきた一方、現代では、ゴミ屋敷現象として知られるホーディング（強迫的なため込み症）や、ソーシャルゲームの流行で浮上したコンプ・ガチャ問題など、「集める」ことへの過度の熱中が問題視されている現実があります。

私たちはなぜ、どのようにして「集める」ことに駆り立てられるのか、また「集める」ことを通じて何が生みだされているのか、考えてみたいと思います。

(時津裕子)